

令和5年度 会派議員派遣報告書

会派名	新風会
議員名	徳重 政時、政平 智春、新元 昭
議員派遣先名	和歌山県新宮市春日1番1号 新宮市議会

派遣費用

科目	支出額	摘要
調査費	131,280円	旅費
調査費	4,010円	視察先への土産代
合計	135,290円	

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

本市は、災害発生に対する危機管理意識が脆弱であることから、新宮市を視察し、被災対応について伺う。

紀伊半島は台風襲来と豪雨に見舞われる位置にあり、特に平成23年9月台風12号の大災害の教訓と、未曾有の南海トラフ巨大地震を想定しての対策など、共に被災した教訓や今後の災害時の対応や課題について、事前の調査事項について防災対策課の職員より説明を受ける。

2 実施概要（1カ所目）

実施日時	派遣先	和歌山県新宮市春日1番1号 新宮市議会
令和5年11月9日（木） 9:30~11:30	担当部局	総務部 防災対策課
報告内容・所感	<p>防災対策課の参事以下2名の職員により、新宮市の位置と地勢、世界遺産のまちの所以から始まり、本題の調査事項に対する説明があり。</p> <p>主な質問事項 （問）1年を通じたの防災教育は実施されているのか。 （答）住民による災害対策・対応などを題目に、町内会や自主防災組織を対象に「出前講座」を30回程度開催している。その際には県が作成した災害避難ゲームを活用している。また、「総合防災訓練」は大規模な災害を想定し、住民のほか市消防本部・和歌山県警察・海上保安庁等で5年に1度実施している。</p>	

(問) 被災時における避難体制と、飲料や食料の確保・配布の仕組みは。

(答) 飲料や食料は備蓄と協定による物資協定がある。南海トラフ巨大地震などの大規模な災害に備えて、発災から3日間程度は支援物資が届かないことを想定し備蓄をしている。配布の仕組みについては、明確な仕組みはないが、台風等の避難者には毛布、水、パンを配布する。衛生用品(子供・大人のオムツや生理用品)には特段の配慮をしている。

(※避難体制については、本市とほぼ同じである)

(問) 避難所の生活環境の整備について。

(答) 段ボールパーティションでの区画分け、ファミリーテントを約100台用意している。また、支援を要する聴覚障害者に役立ててもらうために、新宮市視聴覚障害者協会、社会福祉法人美熊野福祉会の協力により、「耳が聞こえません」「手話ができます」と表示したバンダナを作成した。普段は防災バッグなどに入れて、万が一に備えてもらいたい。

(問) トイレ、洗面所、風呂、就寝場所の確保は。

(答) ポータブルトイレ159基、自動パック式トイレ2基用意。また、断水時に備え生活用水として井戸を建設しており、中核避難所10か所中に3か所設置している。就寝場所は体育館、会館、福祉センター等で、風水害の場合に限り避難所以外に、市内のホテル・旅館への避難を推奨している。この場合、1人1泊3000円の補助金助成をしている。

他には、通信網の整備、停電時の電力の確保、各戸別の避難の連絡方法等について問う。

各対策・訓練等のハード面については、本市と同様以上の体制を整えておられるようでした。参考とすべきはソフト面で、出前講座を年間30回開催する中で、地域により住民の危機管理意識に温度差があるため、啓発活動の一環として県が作成した災害避難ゲームを取り入れ、津波から逃げる際の事前準備の重要性や、避難所で発生する課題について話し合うゲームなど、小学生から高齢者まで楽しく参加しやすいように工夫を凝らしているとのこと。

避難所での配布用品の中で生理用品の配布については、東日本大震災の被災地での経験から①生理用品と分かりにくいよう袋に入れて配布して欲しい②枚数ではなくパックでの配布を要望などの意見を参考に、配る方・受け取る方・掃除する方の気持ちの負担を少しでも軽減したいとの思いでパックの図案も考慮すべきと担当課が策定中で、今年度中に完成予定とのこと。

「耳が聞こえません」「手話ができます」と表示したバンダナを作成した。普段は防災バッグなどに入れて、万が一に備えてもらいたいと障害者や弱者に対する細やかな配慮の必要性を感じた。新宮市においても少子高齢化の波が押し寄せ人口減少が進み、町内会や自主防災組織を維持していくことに腐心しておられるようでした。

両市は、先人たちが古くから築いてきた深いつながりと交流があり、特に平成30年7月豪雨災害の折には多大なる救援活動と見舞金まで頂戴しました。令和元年11月10日には、災害時の対応について両市の経験とノウハウを共有し、危機管理の取り組みの強化に活かすとともに、相互が協力し合える関係性を構築することとして、姉妹都市提携が調印されました。その記

	<p>念日の前日に行政視察のご縁を頂きました。そして、田岡市長を表敬訪問し、和やかに歓談の機会を頂戴し、帰三の途に就きました。</p>
<p>市政に活かせること(まとめ)</p>	<p>所感で述べている通り、市民の危機管理意識の脆弱性については、本市と同様に腐心しておられるようでした。その中で、意識喚起への啓発活動の一環として災害避難ゲームなどを取り入れ、多くの老若男女問わず楽しく参加してもらえる方法や障害者に対するバンダナを作成し、一目瞭然で両者が分かり合える体制づくりを推進している。避難所での配布物の中に、生理用品と分かりにくいような袋に入れて配布し女性や高齢者への細かな配慮をされている等々。今後、本市においても被災した場合、長期間の避難所生活を余儀なくされることを想定して、参考とすべきと思料します。</p>

※ 施設先の写真・資料等を必ず添付すること。